2026年度

郡山健康科学専門学校
講義概要

作業療法学科
1年生

学校法人こおりやま東都学園

作業療法学科　2025年度生　履修一覧

1年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
科学的思考の基盤人間と生活 社会の理解	心理学	●
	法学	●
	社会福祉学	●
	統計学	●
	物理学	●
	化学	●
	保健体育	
	外国語（英語）	
	コミュニケーション論	●
人体の構造と機能　及び心身の発達	解剖学Ⅰ	●
	解剖学Ⅱ	●
	人体の構造と機能	●
	生理学Ⅰ	●
	生理学Ⅱ	●
	生理学実習	●
	運動学Ⅰ	●
	人間発達学	●
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	公衆衛生学概論	●
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	●
	看護・介護概論	
基礎作業療法学	基礎作業療法学	●
	作業療法概論	●
	作業療法演習Ⅰ	
	作業療法演習Ⅱ	
地域作業療法学	生活環境論	●
作業療法管理学	医療倫理・職業倫理	●

2年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
科学的思考の基盤人間と生活　社会の理解	医療英会話	
人体の構造と機能　及び心身の発達	解剖学実習	●
	運動学Ⅱ	●
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	●
	臨床心理学	●
	内科学	●
	整形外科学	●
	神経内科学	●
	精神医学	●
	小児科学	●
	老年学	●
	薬理学	●
	内部障害学	●
	疾病と障害の成り立ち	●
基礎作業療法学	応用作業療法学	●
	作業療法演習Ⅲ	
	作業療法研究法Ⅰ	●
作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	●
	作業療法評価学Ⅱ	●
	作業療法評価学Ⅲ	●
作業療法治療学	日常生活技術論	●
地域作業療法学	レクリエーション（選択必修）	
	障害者スポーツ（選択必修）	
臨床実習	見学実習	

3年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	理学療法概論	
	言語療法概論	
基礎作業療法学	作業療法研究法Ⅱ	●
作業療法評価学	作業療法評価演習	
作業療法治療学	日常生活技術演習	●
	精神科作業療法治療学	●
	義肢・装具学	●
	高次脳機能治療学	●
	老年期作業療法学	●
	発達障害作業療法学	●
	内部障害作業療法学	●
	中枢神経系作業療法学	●
	末梢神経系作業療法学	●
	臨床作業療法学	●
地域作業療法学	地域作業療法学	●
	福祉住環境論	●
臨床実習	臨床実習Ⅰ	

4年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
基礎作業療法学	総合演習Ⅰ	●
	総合演習Ⅱ	●
作業療法管理学	作業療法管理学	●
臨床実習	在宅リハビリテーション実習	
	臨床実習Ⅱ	

１．基礎分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
心理学	羽川　孝幸	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

心理学はこころを扱う科学だが，見ることも触れることもできない．しかし，心理学を理解することで人の特徴や成長過程，個性の成り立ちの理解に役立つ．講義を通して自分自身を俯瞰し，対象者に関わる基礎を学ぶ．

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①日常生活や作業療法士としての仕事に役立つヒント・理論を獲得する	考え抜く力
②仕事や生活が円滑に営めるようなコツを学ぶ	知識・理解
③自分を俯瞰して見れる視点を持つ	論理的思考力
④他者とのいい関係性を持てるようになる	
⑤心理学のテクニックを実践できる	

【履修上の注意】予習・復習を心がけてください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	心理学講義の今後の予定について 心理学の概論・歴史	個人
2	多重知能理論	①知能とは　②多重知能理論 ③ニューロダイバーシティ　④得意なことグループワーク	グループ
3	パーソナリティ心理学	①性格とは　②性格の成り立ち ③類型論・特性論　④グループワーク	グループ
4	パーソナリティ心理学	①認知スタイル　②いろいろな性格理論 ③グループワーク	グループ
5	パーソナリティ心理学	①エゴグラムについて　②TEG-Ⅲ ③なりたい自分について　④グループワーク	グループ
6	認知・学習心理学	①マインドセット　②硬直・しなやかマインドセット ③「GRIT」やり抜く力　④グループワーク	グループ
7	認知・学習心理学	①ものごとの捉え方　②認知理論 ③自動思考　④グループワーク	グループ
8	前半のまとめ	心理学で学んだことを自分の成長にどう生かせるかをグループで検討する	グループ
9	集団・社会心理学	①社会心理学について　②同調行動・群集心理 ③社会的促進　④ステレオタイプ　⑤グループワーク	グループ
10	集団・社会心理学	①コミュニケーション　②リフレーミング ③上手な頼み方　④グループワーク	グループ
11	集団・社会心理学	①関係性　②関係を作る〇〇効果 ③いい集団　④グループワーク	グループ
12	発達心理学	①発達心理学について　②自己効力感・自己有能感 ③アイデンティティ　④グループワーク	グループ
13	発達心理学	①価値観　②メディアの影響　③大人の発達 ④親離れ　⑤グループワーク	グループ
14	心理学のテクニック	日常に活かせる心理学のテクニックについて理解する	グループ
15	人生のつまづき	①知的障害　②発達障害　③精神障害 ④マジョリティとマイノリティ　⑤グループワーク	グループ

期末試験	レポート試験	評価方法	受講態度 50% レポート 50%

【教科書】	特になし
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】他者とのコミュニケーション、良い関係を築く実践をしてください

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
法学	菅原　好秀	薄井（純）

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

単なる日本国憲法を前提とした法学的知識を習得するにとどまらず、医療の専門職として、現代の医療の法制度の現状と課題について、人権における法学的視点から問題点を発見し対応ができることを目的とします。

【学習目標（到達目標）】

①日本国憲法と医療職との関係性について説明することができる。
②医療の人権問題について、法学的視点から問題点を発見し対応ができる。
③法体系全体を、判例を踏まえて医療の視点から説明することができる。
④現代医療の課題について、法学的視点から問題点を発見し対応ができる。
⑤医療現場における具体的事例に対し、法学的根拠に基づいた対応ができる。

【受講して得られる力】

論理的思考力
問題解決力
専門職としてのｽｷﾙ・意識
創造的思考力
コミュニケーションスキル

【履修上の注意】予習・復習を心がけてください。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	ガイダンス	日常における法とのかかわり、法の機能・分類、法の歴史と重要性を、事例とともに理解する。	個人・グループ
2	人権総論と人権の享有主体性	人権の歴史と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
3	人権の妥当範囲と基本的人権の限界	公共の福祉と医療との関係性について、判例とともに理解する。	個人・グループ
4	包括的権利と幸福追求権	自己決定権と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
5	精神的自由権と経済的自由権	表現の自由と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
6	社会権と生存権	生存権と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
7	受益権と国家賠償請求権	国家賠償請求権と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
8	統治機構における国会・内閣・裁判所	統治機構と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
9	地方自治と住民自治・団体自治	地方自治と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
10	憲法改正と憲法保障	憲法保障と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
11	憲法判例と医療	憲法における医療の裁判事例について理解する。	個人・グループ
12	医療とリスクマネジメント	医療事故とリスクマネジメントについて理解する。	個人・グループ
13	医療と法制度の現状	医療と法制度の現状について理解する。	個人・グループ
14	医療と法制度の今後の課題	医療と法制度の今後の課題について、事例とともに理解する。	個人・グループ
15	まとめ	憲法および法学の授業を振り返り、法学と医療の全体像を理解する。	個人・グループ

期末試験	前期期末試験	評価方法	受講態度 30%
			筆記試験 70%

【教科書】	渡辺信英編『日本国憲法　人権と福祉』（南窓社）
【参考書】	講義において適宜指示します。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書の該当する項目を熟読し、テーマの活用について考えて下さい。

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
社会福祉学	阿部　正孝	薄井（純）

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

私たちが過ごしやすい社会を作り出すために求められている社会福祉について学ぶ.

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①環境問題を説明できるように学ぶ.	考え抜く力
②少子高齢化に伴う社会の変化を理解して説明できるようになる.	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③人々の生活のしづらさを理解する.	知識・理解
④	態度・志向性
⑤	統合的学習体験

【履修上の注意】担当者は授業の前に要点記入用のメモ用紙を用意し授業終了後に提出すること

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	社会福祉の理念と意義	生活と福祉について理解する	個人
2	社会福祉の理念と意義	コロナ禍と災害について理解する	個人
3	社会福祉の理念と人権	基本的人権とノーマライゼイションを理解する	個人
4	子ども家庭福祉Ⅰ	少子化時代の子育て支援を理解する	個人
5	子どもの家庭福祉Ⅱ	子供のすこやかな成長の支援や課題を理解する	個人
6	障害者福祉とはⅠ	障害者の定義、現状と課題について理解する	個人
7	障害者福祉とはⅡ	各障害の課題を理解する	個人
8	高齢者福祉Ⅰ	人口動態を中心に高齢者福祉を理解する	個人
9	高齢者福祉Ⅱ	高齢者のメンタルヘルスを理解する	個人
10	生活保護	生活保護の概要と動向を理解する	個人
11	貧困と子供	貧困の定義を理解する	個人
12	減災論	震災対応について理解する	個人
13	発達障害Ⅰ	自閉症スペクトラムとADHDについて理解する	個人
14	発達障害Ⅱ	引きこもりについて理解する	個人
15	まとめ　振り返り	人権、差別を学び、理解する	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	特に指定しない
【参考書】	特に指定しない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	社会問題や，地域社会の課題について述べられるようになることを期待する

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
統計学	田中　絹代	内柴

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業・理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

統計学の基本的な考え方と基礎的な手法を学ぶ．データの分布に関する知識を身に付ける．データの処理を習得し，推測と仮説検定法について理解する．

【学習目標(到達目標)】

①データを整理・分析するために必要な統計学の基本的な考え方について理解する．

②データの整理・分析手法を理解するための基礎を身につける．

③母平均の推定・検定について理解する．

【受講して得られる力】

知識・理解

専門職としてのｽｷﾙ・意識

問題解決力

論理的思考力

【履修上の注意】とくになし

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	統計学の概説	統計の必要性，統計で用いられるデータの概要が理解できる	個人
2	データの表わし方	データの種類の概要が理解できるとともに，データをグラフや表で表わすことができる	個人
3	データの分布の代表値　1	データの分布の特徴(中心)を表わす代表値について理解できる	個人
4	データの分布の代表値　2	データの分布の特徴(拡がり)を表わす代表値について理解できる	個人
5	データ間の関係	2グループ間のデータの相関関係を把握するために用いる相関と回帰について理解できる	個人
6	確率変数と確率分布	確率変数と確率分布について理解できる	個人
7	正規分布1	連続型確率分布である正規分布の定義が理解できる	個人
8	正規分布2	標準正規分布表を用いた計算について理解できる	個人
9	二項分布	離散型確率分布である一様分布，二項分布，ポアソン分布について理解できる	個人
10	母集団と標本	母集団と標本の違いについて理解できる	個人
11	区間推定1	点推定と区間推定の違いについて理解できる	個人
12	区間推定2	母分散が既知の場合と未知の場合の母平均の区間推定方法について理解できる	個人
13	仮説検定	検定の考え方、有意水準、第一種の過誤、第二種の過誤について理解できる	個人
14	母平均の検定	母平均の検定方法について理解できる	個人
15	まとめ	今までの講義内容を振り返ることにより，統計学に関する知識を身に付ける	個人

期末試験	評価方法		
実施しない。		小テスト	80%
		受講態度	20%

【教科書】	なし
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】データの収集・代表値・相関係数・正規分布・基本統計量について計算する

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
物理学	佐藤　睦浩	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

物理学の内容のうち、特に運動学と関係の深い力学と力学的エネルギーを中心に理解する。なお、本講義は講義を軸に適宜小テストを実施していく。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①物理学の基礎知識を理解する	考え抜く力
②力学と力学的エネルギーについて理解する	知識・理解
③力学の基礎的な内容を理解することにより、生体での応用に結びつける力を養う	論理的思考力
④	
⑤	

【履修上の注意】分からない点は講義内で質問し、復習をすること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	物理学の概要	オリエンテーション(物理学の学習にあたって) 物理学史概論	個人
2	物理学の基礎知識Ⅰ	単位系　三角関数の計算	個人
3	物理学の基礎知識Ⅱ	ベクトルの取り扱いについて	個人
4	等速運動、等加速度運動	等速直線運動での速度・時間・距離の関係 等加速度運動での速度・加速度・時間・距離の関係	個人
5	力の表し方、つり合い	力をベクトルの矢印で表わす 力のつりあいを作図し立式する	個人
6	仕事	仕事の定義と計算	個人
7	力学的エネルギー	重力による位置エネルギーと運動エネルギー	個人
8	力学的エネルギー保存	力学的エネルギー保存の計算	個人
9	剛体の力学	剛体を回転させる力 モーメントのつりあいの計算	個人
10	モーメントのつりあい	モーメントのつりあいの演習	個人
11	生体におけるモーメントⅠ	モーメントのつりあいから生体の各部にかかる力を算出する	個人
12	生体におけるモーメントⅡ	モーメントのつりあいから生体の各部にかかる力を算出する	個人
13	生体におけるモーメント演習	問題演習により力をつける	個人
14	放射線の基礎知識	放射線の種類と性質 放射線の人体に対する影響	個人
15	総合演習	まとめ	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 70% 課題の達成度 30%

【教科書】	特にないが授業時に関連する内容の資料やワークシートを配布する。
【参考書】	運動学のテキストが参考になる

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	授業内容の復習を行い、学習内容が身につくようにして下さい

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
化学	田中	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

自然科学の重要な学問のひとつである「化学」を学ぶことにより、日常生活を豊かにしている製品のもつ物質の本質を理解する。

【学習目標(到達目標)】

①医療関係に携わる学生にとって必要と考えられる化学の基礎知識と専門的内容を精選し学ぶ.
②科学思考を養うと共に生命を尊重する態度を育てる.

【受講して得られる力】

考え抜く力
知識・理解
論理的思考力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	化学(概論・物質)①	(1)物質を構成する粒子 (2)原子 (3)原子量	グループ
2	化学(概論・物質)②	(4)イオンとイオンの生成 (5)単原子イオンと多原子イオン	グループ
3	化合結合①	(1)イオン結合とイオン結晶 (2)金属結合と金属結晶 (3) 共有結合と共有結合の結晶	グループ
4	化合結合②	(1)有機化合物 (2)高分子化合物	グループ
5	1－4コマ目のまとめ	要点の整理と応用	グループ
6	半透膜①	(1)浸透圧 1)半透膜 2)細胞の成分	グループ
7	半透膜②	3)透析 (2)生理食塩水	グループ
8	酸と塩基①	(1)酸と塩基 1)定義と性質 2)酸塩基の強弱 3)水の電離平衡	グループ
9	酸と塩基②	(4)pH (5)中和反応と塩 (6)塩の加水分解 (7)塩の液性	グループ
10	6－9コマ目のまとめ	要点の整理と応用	グループ
11	溶液と調整①	(1)パーセント濃度 (2)モル濃度 (3)規定濃度	グループ
12	溶液と調整②	(4)(A＋B)(A:B)と(A→B) (5)濃硫酸の希釈法	グループ
13	酸化と還元①	(1)酸化と還元 (2)酸化数	グループ
14	酸化と還元②	(3)酸化剤・還元剤	グループ
15	11－14コマ目のまとめ	要点の整理と応用	グループ

期末試験	総合的に判断「	評価方法	課題の達成度	30%	受講態度	30%
			小テスト	30%	授業への貢献	10%

【教科書】	適時配布
【参考書】	適時紹介

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	授業内容の復習を自分で作成したノートを中心に行ってください。		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保健体育(1/2)	山内　翼	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	(45)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

教育内容を人間と生活に位置付け、体育の分野では生涯スポーツを目指し運動技能の向上を図る。保健の分野では生涯を健康で心豊かに生きていくために必要なことは何かを考え、前向きに生きる力に繋げていく。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①各種のスポーツに触れ、実践することで基礎的な運動技能を高める。	前に踏み出す力
②練習や試合を通してチームワークとコミュニケーションスキルを培うことができる。	考え抜く力
③体力増強を図り、逞しく生きる力を培う。	チームで働く力
④試合では作戦を練り、互いに勝敗を競い合う。	コミュンケーションスキル
	知識・理解

【履修上の注意】**体操着、体育館シューズ、水分の準備を徹底すること。※私服、実習着、実習靴、アクセサリー等を身に付けたままの受講は認めない。**

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	運動活動におけるオリエンテーション	1.ストレッチング運動の方法 2.活動時における取り組み方　3.器具・機材の安全管理	グループ
2	バレーボール	ルール説明とボール操作法の理解と練習(オーバーハンド及びアンダーハンドパス)	グループ
3		パスの復習とボール操作法の理解と練習(サーブの導入)	グループ
4		パス・サーブの復習とボール操作法の理解と練習(アタックの導入)	グループ
5		サーブ・アタックの復習と対人レシーブ	グループ
6		アタックの復習とゲームの導入(レセプションのフォーメーション説明とチームづくり)	グループ
7		対人レシーブ・アタックの復習とブロックの導入・チーム練習・ゲーム(リーグ戦1)	グループ
8		対人レシーブ・アタック・サーブ・チーム練習・ゲーム(リーグ戦2)	グループ
9	卓球	オープンハンドサービスの説明と出し方。オープンハンドサービスからのフォアハンド打法。	グループ
10		フォアハンド打法からとスマッシュ打法への発展練習。	グループ
11		バックハンド打法の説明と練習。フォアハンド、バックハンド打法の体勢(足の構え方)。	グループ
12		戦型別特徴の説明とフォアハンド打法とバックハンド打法の切り換え練習。	グループ
13		ボールの回転の説明とサービスとツッツキ打法の練習。変化サービスとそのサービスに対してのレシーブ練習。	グループ
14		シングルス・ダブルスのルール説明とゲーム。	グループ
15	まとめ	これまでの到達度の確認と各活動の振り返りを行う	グループ

期末試験	実施あり	評価方法	授業への貢献　60% 実技試験　40%

【教科書】	特に定めない
【参考書】	特に定めない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】学習カード等を用いて、達成度の確認を行う場合がある。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保健体育(2/2)	山内　翼	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	(45)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

教育内容を人間と生活に位置付け、体育の分野では生涯スポーツを目指し運動技能の向上を図る。保健の分野では生涯を健康で心豊かに生きていくために必要なことは何かを考え、前向きに生きる力に繋げていく。

【学習目標(到達目標)】

①身近な健康について目を向け、理解を深めることで、自己の健康管理に繋げることができる。
②自身の健康だけでなく、周りの人への健康に関する配慮について考えることができる。
③各種保健活動について理解することができる。
④正しい知識を身に付けた上で、行動選択ができる。

【受講して得られる力】

問題解決力
情報活用能力
知識・理解

【履修上の注意】教科書を指定しないため、授業での板書だけでなく、話の内容をメモしておくこと。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	健康のとらえ方 (教室授業)	「健康とは何か。」健康は私たちにとって、とても身近な話題である。しかし、この問いの答えは簡単ではない。健康のとらえ方についてあなたの答えを見つけていく。	個人
2	喫煙と健康について (教室授業)	喫煙は世界的な健康問題であるとして、日本をはじめ各国で様々な対策が行われている。喫煙は、なぜそれほどまでに大きな問題とされているのか学ぶ。	個人
3	飲酒と健康について (教室授業)	飲酒は、交通事故や暴力事件などの社会問題だけでなく、深刻な健康問題をもたらすことがある。飲酒は健康にどのような影響を与えるのか学ぶ。	個人
4	薬物乱用と健康について (教室授業)	世界中で薬物乱用が絶えない。なぜ、社会は薬物乱用を大きく取り上げるのか、また個人として社会として何をするべきかを考える。	個人
5	生活習慣とその予防 (教室授業)	がん・心臓病・脳卒中などの病気は、自分とは無関係だと思っている人が多くいる。しかし、あなたの生活習慣が、その原因になる可能性がある。健康的な生活習慣について考える。	個人
6	妊娠・出産と健康、家族計画と人工妊娠中絶 (教室授業)	新しい命が誕生する時、特に健康に対して注意しなければならない時期でもある。また、望まない妊娠・出産は親子にとって大きな負担となる可能性があるということを学ぶ。	個人
7	日常的な応急手当と意義 (教室授業)	怪我や熱中症の応急手当の知識を身に付けていると、日常生活で大いに役立つ。正しい方法や手順を学ぶ。	個人
8	心肺蘇生法について (教室授業)	心肺蘇生法の知識を身に付けていると、日常生活で大いに役立つ。正しい方法や手順を学ぶ。	個人
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験	実施あり	評価方法	課題の達成度　100%	

【教科書】	特に定めない
【参考書】	特に定めない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】授業を聞くだけでなく、積極的に自分で調べることが必要となる。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
外国語(英語)	Robert Holt	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

The purpose of this course is to teach students "Beginner" level English and to give them the confidence to use this English in real situations. The course will focus on developing core skills for communication.

【学習目標(到達目標)】

Students will be expected to use English in class (i.e. in greeting the teacher or other students). Over the course students will experience English in a number of formats (reading, listening, music etc) and will be expected to communicate in English.

【受講して得られる力】
考え抜く力
知識・理解
コミュンケーションスキル
統合的学習体験
態度・志向性

【履修上の注意】 辞書使用

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	1A – Hello	Verb be (singular): I and you. Numbers 0–10; days of the week.	個人・グループ
2	1B – Where are you from?	Verb be (singular): He, she and it. Countries.	個人・グループ
3	Practical English: How do you spell it?	The alphabet and spelling. Spelling practice.	個人・グループ
4	2A – We aren't English. We're American.	Verb be (plural): We, you, they. Nationalities.	個人・グループ
5	2B – What's your phone number?	Wh– and How questions with be. Phone numbers; numbers 11–100.	個人・グループ
6	3A – What's in your bag?	Singular and plural nouns; a / an. Vocabulary – small things.	個人・グループ
7	3B – Is that a hat?	This / That / These / Those. Vocabulary – Souvenirs.	個人・グループ
8	Practical English: Can I have an orange juice, please?	Saying and understanding prices. The use of money and numbers.	個人・グループ
9	4A – Family and friends.	Possessive adjectives; possessive 's. Vocabulary – people and family.	個人・グループ
10	4B – Big cars or small cars?	Adjectives. Colours and common adjectives.	個人・グループ
11	5A – Breakfast around the world.	Present simple (+ / –): I, you, we and they. Food and drink vocabulary.	個人・グループ
12	5B – A very long flight.	Present simple (?): I, you, we and they. Common verb phrases 1.	個人・グループ
13	Practical English: What time is it?	Telling the time. Saying how you feel.	個人・グループ
14	6A – She works for Armani.	Present simple: He, she and it. Jobs and places of work.	個人・グループ
15	6B – A day in my life.	Adverbs of Frequency. A typical day.	個人・グループ
期末試験		評価方法	筆記試験 100%

【教科書】	English File – Beginner Student's Book. Christina Latham-Koenig & Clive Oxenden.
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	スペリング小テストの準備のための学習(数回)		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
コミュニケーション論 ※ 実務経験のある教員の授業科目	内柴　佑基 病院（作業療法士）7年勤務	内柴

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

対象者や他職種・上司等と「スムーズな人間関係を築く」こと、仕事をしていく上で「自己管理能力」は重要です。この科目では、挨拶・敬語・接遇・マナー・身のこなし・エチケット・好印象な話し方・人間関係づくり・自己管理の基本を習得します。

【学習目標（到達目標）】

① 誰とでもスムーズにコミュニケーションをとることができる。
② 社会人としての基本的マナーを身に付け、説明することができる。
③ チーム医療が求められる理由と現状について理解する。
④ 理学療法士、作業療法士のチームでの役割・業務・等について理解する。

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
専門職としてのｽｷﾙ・意識
コミュンケーションスキル
態度・志向性

【履修上の注意】グループワークが主となるため、主体的に参加してください。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	当科目の進め方、参加の仕方について理解し、当科目で身につける個人目標を立てることができる。	グループ
2	医療者になるための準備	医療者としての身だしなみについて理解し、そのポイントをまとめることができる。	グループ
3	自分を理解しよう	コミュニケーションをとるうえで、自身を知ることが重要であるため、自身の特性を知り、理解しまとめることができる。	グループ
4	自分を理解しよう	コミュニケーションをとるうえで、自身を知ることが重要であるため、自身の特性を知り、理解しまとめることができる。	グループ
5	コミュニケーション力を育もう　①	コミュニケーションに必要な能力を学び、活用することができるようになる。	グループ
6	コミュニケーション力を育もう　②	コミュニケーションに必要な能力を学び、活用することができるようになる。	グループ
7	自律した自分になろう	自己管理や自身の使命を理解したうえで、行動できるようになる。	グループ
8	社会人マナーとしてのコミュニケーション　①	社会人に必要なスキルを学び、理解することができる。	グループ
9	社会人マナーとしてのコミュニケーション　②	社会人に必要なスキルを学び、理解することができる。	グループ
10	臨床に役立つコミュニケーションスキル　①	臨床で活用するコミュニケーションにスキルを学び、理解することができる。	グループ
11	臨床に役立つコミュニケーションスキル　②	臨床で活用するコミュニケーションにスキルを学び、理解することができる。	グループ
12	コミュニケーションスキル演習　①	コミュニケーションに必要なスキルを実際に実践して学び、会得することができる。	グループ
13	コミュニケーションスキル演習　②	コミュニケーションに必要なスキルを実際に実践して学び、会得することができる。	グループ
14	実技試験①	臨床で活用するコミュニケーションについて、模擬で実技試験を実施し、学んだ技術を発揮することができる。	グループ
15	実技試験②	臨床で活用するコミュニケーションについて、模擬で実技試験を実施し、学んだ技術を発揮することができる。	グループ

期末試験	評価方法		
なし	実技試験	40%	
	課題の達成度	60%	

【教科書】	PT・OT・STのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド 第3版　医学書院
【参考書】	随時紹介する。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】対人援助職として、積極的な行動や能動的な行動を意識して、講義に臨んでください。

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】教員室にて

2. 専門基礎分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
解剖学Ⅰ(1/2)	薄井　俊介	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

人体を構成し運動に関与する骨・筋の構造と機能の基本的内容を理解する。この講義での学習内容に他の科目の学習を加えることで臨床的思考を養い、「身体障害系リハビリテーション」の基本を身につける。

【学習目標(到達目標)】

①上肢を構成する骨と筋の構造を理解し、説明できる。
②理解した骨と筋の構造を、運動機能と関連付けて説明できる。
③筋と支配神経を、関節運動と関連付けて説明できる。
④
⑤

【受講して得られる力】

考え抜く力
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】授業内で触れた教科書の内容を、自分でノートにまとめる工夫を身につけてほしい

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	解剖学用語と人体の区分	解剖学用語と人体の区分、骨の名称など、骨筋系の基礎を学び、今後の講義の理解につなげる。	個人
2	骨格総論	骨の形態、骨の特徴を表す用語、骨の構造と機能について理解する。	個人
3	関節靭帯総論	骨の連結部分である関節と靭帯の構造と機能、分類について理解する。	個人
4	筋系総論①	骨格筋と呼ばれる筋の一般的な構造と機能を学び、骨格筋の作用を理解する。	個人
5	筋系総論②	骨格筋と呼ばれる筋の一般的な構造と機能を学び、骨格筋の作用を理解する。	個人
6	上肢の骨①肩甲帯・肩関節	肩甲帯および肩関節を構成する骨を確認し、構造と機能を理解する。	個人
7	上肢の骨②前腕・手部	前腕および手部を構成する骨を確認し、構造と機能を理解する。	個人
8	上肢の関節①肩甲帯・肩関節	肩甲帯および肩の関節について、構造と機能を理解する。	個人
9	上肢の関節②肘関節	肘関節について、構造と機能を理解する。	個人
10	上肢の関節③手関節・指の関節	手関節および指の関節について、構造と機能を理解する。	個人
11	上肢の筋①肩甲帯	肩甲帯の筋について確認し、機能を理解する。	個人
12	上肢の筋②上腕	上腕の筋について確認し、機能を理解する。	個人
13	上肢の筋③前腕・手部	前腕・手部の筋について確認し、機能を理解する。	個人
14	腕神経叢	腕神経叢について確認し、その構造と機能を理解する。	グループ
15	前期のまとめ	上肢の関節・筋についての振り返りを行い、理解を深める。	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90%
			小テスト 10%

【教科書】	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学第6版(医学書院)
【参考書】	人体の正常構造と機能 【全10巻縮刷版】 改訂第4版(日本医事新報)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】小テストが評価に反映されるため、講義内容の復習を怠らないよう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
解剖学Ⅰ(2/2)	薄井　俊介	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

人体を構成し運動に関与する骨・筋の構造と機能の基本的内容を理解する。この講義での学習内容に他の科目の学習を加えることで臨床的思考を養い、「身体障害系リハビリテーション」の基本を身につける。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①上肢を構成する骨と筋の構造を理解し、説明できる。	考え抜く力
②理解した骨と筋の構造を、運動機能と関連付けて説明できる。	知識・理解
③筋と支配神経を、関節運動と関連付けて説明できる。	専門職としてのｽｷﾙ・意識
④	
⑤	

【履修上の注意】授業内で触れた教科書の内容を、自分でノートにまとめる工夫を身につけてほしい

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	頭部の骨	脳頭蓋および顔面頭蓋を構成する骨について理解する。	個人
2	頭部の連結・筋	脳頭蓋および顔面頭蓋の連結および筋について理解する。	個人
3	体幹の骨・筋・関節①脊柱・胸郭	脊柱および胸郭を構成する骨と関節を確認し、その構造と機能を理解する。	個人
4	体幹の骨・筋・関節②脊柱・胸郭2	脊柱および胸郭を構成する骨と関節を確認し、その構造と機能を理解する。	個人
5	体幹の骨・筋・関節③骨盤	骨盤を構成する骨と関節を確認し、骨盤の構造と機能を理解する。	個人
6	体幹の骨・筋・関節④筋	胸腹部および背側の筋について確認し、その機能を理解する。	個人
7	下肢の骨・関節①股関節	股関節を構成する骨および股関節の構造について理解する。	個人
8	下肢の骨・関節②膝関節	膝関節を構成する骨および膝関節の構造について理解する。	個人
9	下肢の骨・関節③足関節・足部	足関節および足部を構成する骨および足関節の構造について理解する。	個人
10	下肢の筋①下肢帯・大腿部	下肢帯および大腿部の筋について確認し、理解する。	個人
11	下肢の筋②下腿・足部	下腿および足部の筋について確認し、理解する。	個人
12	神経叢	胸髄以下の神経について確認し、筋の支配神経について理解する	個人
13	骨・関節・筋のまとめ①	頭部から上肢の骨・関節・筋を触診し、理解を深める。	グループ
14	骨・関節・筋のまとめ②	胸腹部から下肢の骨・関節・筋を触診し、理解を深める。	グループ
15	骨・関節・筋のまとめ③	骨モデルを使用して、スケッチ等を通して理解を深める	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90%
			小テスト 10%

【教科書】	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学第6版(医学書院)
【参考書】	人体の正常構造と機能 【全10巻縮刷版】 改訂第4版(日本医事新報)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】小テストが評価に反映されるため、講義内容の復習を怠らないよう

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
解剖学Ⅱ(1/2)	内柴　佑基	内柴

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

作業療法士は”生きている人の動作，生活”を扱う．動きを司令する神経系，動きを感知する感覚器系，動作を遂行するためのエネルギーの視点から呼吸器系，循環器系および消化器系などの内蔵器系の構造について理解を深める．

【学習目標(到達目標)】

① 神経系，感覚器系の基本的な構成について理解する．
② 循環器系(体循環・肺循環，動脈・静脈，心臓など)の基本的な構造について理解する．
③ 内蔵学(消化器系，呼吸器系，泌尿器系，生殖器系，内分泌系)の基本的知識を理解する．
④ 人体に対し臓器の位置関係をまとめ，説明する事ができる．

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】講義時間外でも質問を積極的に受付けます．「分からないこと」を残さないよう，自分から行動しましょう．

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	解剖学総論1	解剖学の目的，人体の大要と構成について説明する事ができる．	個人
2	解剖学総論2	細胞の構成および人体の発生について説明する事ができる．	個人
3	神経学総論	神経系の基本的な構成について説明する事ができる． (keyword:神経系の区分，神経組織・線維，神経系の構成と発生)	個人
4	中枢神経系1	脊髄，脳幹の構造について理解し，その特徴を説明する事ができる． (keyword:中枢神経・脊髄の区分，脊髄の断面，脳幹の区分)	個人
5	中枢神経系2	小脳の構造について理解し，その特徴を説明する事ができる． (keyword:小脳の区分，小脳脚，内部構造，小脳の出入力)	個人
6	中枢神経系3	大脳，終脳の構造について理解し，その特徴を説明する事ができる． (keyword:大脳半球の区分，大脳皮質と髄節，大脳皮質の機能局在)	個人
7	中枢神経系4	神経路の特徴について理解し，その特徴を説明する事ができる． (keyword:上行性，下行性)	個人
8	中枢神経系5	神経路の特徴について理解し，その特徴を説明する事ができる． (keyword:上行性，下行性)	グループ
9	中枢神経系6	中枢神経系の構成と機能についての総合的なまとめ	グループ
10	末梢神経系1	脊髄神経の走行および機能について理解し，その特徴を説明する事ができる．(keyword:神経節，皮節，各種神経叢)	個人
11	末梢神経系2	脳神経の走行と機能について理解し，その特徴を説明する事ができる．(keyword:神経核，運動性，感覚性，混合性)	個人
12	末梢神経系3	自律神経系の構成と機能について理解し，その特徴を説明する事ができる．(keyword:交感神経系，副交感神経系，壁内腸神経系)	個人
13	末梢神経系4	末梢神経系の構成と機能についての総合的なまとめ	グループ
14	感覚器系1	外皮の基本構造について理解し，その特徴を説明する事ができる． (keyword:皮膚の構造，皮膚の感覚器，皮膚腺)	個人
15	感覚器系2	視覚・平衡聴覚・嗅覚・味覚器の構造について理解し，その特徴を説明する事ができる．(keyword:眼球，外・中・内耳，前庭，三半規管)	個人
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験 80% 小テスト 20%

【教科書】	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学　第5版(医学書院)
【参考書】	人体の正常構造と機能 【全10巻縮刷版】 改訂第4版(日本医事新報)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】事前学習動画とワークシートを用います．復習にも活用してください．

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
解剖学Ⅱ(2/2)	内柴　佑基	内柴

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

作業療法士は”生きている人の動作、生活”を扱う. 動きを司令する神経系、動きを感知する感覚器系、動作を遂行するためのエネルギーの視点から呼吸器系、循環器系および消化器系などの内蔵器系の構造について理解を深める.

【学習目標(到達目標)】

① 神経系、感覚器系の基本的な構成について理解する.
② 循環器系(体循環・肺循環、動脈・静脈、心臓など)の基本的な構造について理解する.
③ 内蔵学(消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系)の基本的知識を理解する.
④ 人体に対し臓器の位置関係をまとめ、説明する事ができる.

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】講義時間外でも質問を積極的に受付けます.「分からないこと」を残さないよう、自分から行動しましょう.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	前期の復習	前期の学習内容について振り返り、各ポイントについて説明・回答する事ができる. (keyword:記述, 口頭試問)	個人
2	内蔵学	内臓の定義と器官の種類について理解し, その特徴を説明する事ができる. (keyword:五臓, 六腑, 胸部・腹部の配置)	個人
3	循環器系1	体循環と肺循環, 心臓壁の構造と心室と心房の形態的特徴について理解し, その特徴を説明する事ができる.	個人
4	循環器系2	脈管系の構造, 循環系の分類について理解し, その特徴を説明する事ができる. (keyword:大動脈, 動脈系, 静脈系, 門脈, リンパ系)	個人
5	呼吸器系1	発声に関与する喉頭について理解し、その特徴を説明する事ができる. (keyword:鼻(外鼻・鼻腔), 咽頭, 喉頭(喉頭軟骨・喉頭筋))	個人
6	呼吸器系2	ガス交換に関与する肺について理解し、その特徴を説明する事ができる. (keyword:気管・気管支, 肺)	個人
7	消化器系1	嚥下に関与する構造体と機能について理解し、その特徴を説明する事ができる. (keyword:口腔, 咽頭, 食道, 胃)	個人
8	消化器系2	胃や腸の特徴と機能について理解し、その特徴を説明する事ができる. (keyword:小腸(十二指腸・空腸・回腸), 大腸(盲腸・結腸・直腸))	個人
9	消化器系3	肝臓, 膵臓の機能および腹腔内における位置関係について理解し、その特徴を説明する事ができる. (keyword:肝臓, 胆嚢, 膵臓, 腹膜)	個人
10	内臓系のまとめ1	内臓器官の位置を体表へ投影し説明する事ができる.	グループ
11	泌尿器系1	尿産生に関わる腎臓について理解し、その特徴を説明する事ができる. (keyword:腎臓の構造(腎小体, 傍糸球体, 尿細管), 尿生成)	個人
12	泌尿器系2	尿を運ぶ経路の構成について理解し、その特徴を説明する事ができる. (keyword:尿管, 膀胱, 尿道)	個人
13	生殖器系1	男性生殖器の構造と機能について理解し、その特徴を説明する事ができる. (keyword:精巣, ホルモン, 精巣上体, 精管, 外生殖器)	個人
14	内分泌系1	内分泌系の働きについて理解し、その特徴を説明する事ができる. (keyword:各種ホルモンと分布の場所, 作用)	個人
15	内臓系のまとめ2	内臓器官の位置を体表へ投影し説明する事ができる.	グループ
期末試験	後期期末試験	評価方法	筆記試験 80% 小テスト 20%

【教科書】	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学　第5版(医学書院) ぜんぶわかる人体解剖図(成美堂出版), ぜんぶわかる脳の辞典(成美堂出版)
【参考書】	人体の正常構造と機能 【全10巻縮刷版】 改訂第4版(日本医事新報)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】事前学習動画とワークシートを用います. 復習にも活用してください.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
人体の構造と機能	羽川　孝幸	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

解剖学・生理学・運動学といった基礎医学の領域は、各論の理解だけでなく、系統的かつ統合的な理解が重要である。本講義では、基礎医学の統合を目的にリハビリテーション領域において重要な人体の構造と機能の理解を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①生体の恒常性維持について説明できる	考え抜く力
②神経系による運動制御機構について説明できる	知識・理解
③生体での運動に関与する構造と身体の巧妙な運動機能を説明できる	統合的学習体験
④生体についての基礎医学分野を横断的に説明できる	論理的思考力
⑤	

【履修上の注意】グループワークがメインです。積極的に参加してください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	概論	リハビリテーションにおける基礎医学の役割を理解する	グループ
2	発生と組織	初期胚からの文化について理解する 細胞の集まりからなる組織について理解する	グループ
3	神経系	神経の構造と機能について理解する 中枢神経系、末梢神経系、自律神経系について理解する	グループ
4	感覚と受容器	特殊感覚、体性感覚、内臓感覚について理解する 身体の各種受容器について理解する	グループ
5	骨・関節・靭帯	骨・関節の構造と機能について理解する 人体による補強と関節運動の制限について理解する	グループ
6	筋と代謝	筋の構造と機能について理解する 運動エネルギーの代謝機序について理解する	グループ
7	上肢の運動学	上肢帯、肩、肘、手関節などの運動を理解する	グループ
8	下肢の運動学	下肢帯、股、膝、足関節などの運動を理解する	グループ
9	歩行	歩行を質的に理解する 歩行の関節運動や筋活動について理解する	グループ
10	運動学習	運動学習の理論について理解する	グループ
11	内分泌（ホルモン）	ホルモンの分泌器官、とそれぞれの機能について理解する	グループ
12	循環器	循環器の構造と心拍の調整機構について理解する	グループ
13	呼吸器	呼吸器の構造と機能について理解する	グループ
14	消化と吸収	消化と吸収の構造と機能について理解する	グループ
15	泌尿器	泌尿器の構造と機能について理解する	グループ

期末試験	レポート課題	評価方法	受講態度 20% レポート 80%

【教科書】	解剖学・運動学・生理学の指定教科書
【参考書】	人体の正常構造と機能 【全10巻縮刷版】 改訂第4版(日本医事新報)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	課題は期限内に提出してください

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生理学Ⅰ	羽川　孝幸	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

生理学は正常な生体の機能に関する学問である。生命を維持として、呼吸、循環、消化吸収、排泄、そして調節する内分泌や自律神経系の機能について学習する。

【学習目標(到達目標)】

①生命を維持する機構を説明できる
②各種器官系の調節メカニズムについて理解し，説明できる
③リハビリテーションにおける生理学的影響(リスク)を説明できる
④
⑤

【受講して得られる力】

考え抜く力
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
論理的思考力

【履修上の注意】分からない点は講義内で質問し、予習・復習を含め主体的な学習をすること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	生理学Ⅰ(植物機能)総論	OTと生理学の関わりを理解する 細胞・組織について理解する	個人
2	血液	体液と血液の成分と働きについて理解する 免疫と血液型について理解する	個人
3	循環器系1	心臓の構造と機能について理解する 刺激伝導系と心電図について理解する	個人
4	循環器系2	心周期と心音について理解する 血管の構造と働きと血圧について理解する	個人
5	循環器系3	心臓血管系の調整と各器官の循環について理解する リンパ系の仕組みと働きを理解する	個人
6	呼吸器系1	肺，気道の構造と機能について説明する 呼吸運動とその調節機構、ガス交換について説明する	個人
7	呼吸器系2	呼吸に伴う胸郭運動，胸式・腹式呼吸について理解する 循環に伴う血液でのガスの運搬について理解する	個人
8	中間まとめ	講義の前半を振り返り理解する	個人
9	消化器系1	上部消化管の構造、機能、運動について説明する 消化器系付属器官(肝臓、膵臓など)について説明する	個人
10	消化器系2	下部消化管の構造，機能，運動について説明する。消化管の分泌、栄養素の分解、吸収、排泄について理解する。	個人
11	代謝	基礎代謝、エネルギー所要量について理解する エネルギー代謝について理解する	個人
12	泌尿器系	腎臓の構造と機能、糸球体濾過、尿細管の機能を説明する 尿と体液の調節、排尿のしくみについて説明する	個人
13	生殖	男性と女性の生殖機能について理解する 妊娠と分娩について理解する	個人
14	内分泌系	内分泌の機能について理解する 人体に対するホルモンの作用について理解する	個人
15	自律神経と最終まとめ	自律神経の機能について理解する 臓器に対する自律神経の作用について理解する	個人
期末試験	後期期末試験	評価方法：筆記試験 80%、レポート 20%	

【教科書】	最新リハビリテーション医学講座　生理学
【参考書】	人体の正常構造と機能 【全10巻縮刷版】 改訂第4版(日本医事新報)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習課題を事前に提出すること

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生理学Ⅱ(1/2)	田中絹代	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

生体の運動がなぜ・どのように起こるのか，神経生理学的観点から理解する。国家試験の基礎医学科目に該当する為、個人、グループ活動を取りいれ、知識の確実な定着を目指します

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①生体に生ずる興奮・伝導・収縮について筋・神経系の構造と原理から説明できる	専門職としてのｽｷﾙ・意識
②筋の種類と特徴、および筋の収縮機序について説明できる	考え抜く力
③人体の運動がどのように起こるのか、生理学的機序のついて説明できる	知識・理解
④	態度・志向性
⑤	

【履修上の注意】予習と復習を怠らない

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	生理学の基礎	生体の行動と生理学の接点について関心を持つ ホメオスタシス、生物の発生、DNAについて説明できる	個人
2	細胞の興奮発生と興奮伝導①	細胞の基本的構造と機能について説明できる	個人
3	細胞の興奮発生と興奮伝導②	静止膜電位，活動電位について説明できる	個人
4	細胞の興奮発生と興奮伝導③	シナプスの構造と興奮の伝達について説明できる	個人
5	筋の収縮①	筋の種類(骨格筋，心筋，平滑筋)と特徴、運動単位について説明できる	個人
6	筋の収縮②	骨格筋の筋収縮の仕組み(興奮−収縮連関)について説明できる	個人
7	筋の収縮③	骨格筋の筋収縮のエネルギーについて説明できる	個人
8	中間まとめ	講義の前半を振り返り理解する□	個人
9	運動機能①	運動機能の概要(反射～随意運動)、運動単位について説明できる	個人
10	運動機能②	伸張反射、骨格筋の感覚器(筋紡錘，ゴルジ腱器官)について説明できる	個人
11	運動機能③	下行性伝導路(錐体路、錐体外路)について説明できる	個人
12	運動機能④	脳幹における体性運動反射、小脳における運動学習について説明できる	個人
13	運動機能⑤	大脳基底核の構造と機能について説明できる	個人
14	運動機能⑥	大脳皮質運動野の構造と運動調整機序について説明できる	個人
15	全体の振り返りとまとめ	運動機能の生理的機序について振り返り学習を通して理解を深める	個人
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験 90% 授業への貢献 10%

【教科書】	最新リハビリテーション医学講座　生理学
【参考書】	人体の正常構造と機能 【全10巻縮刷版】 改訂第4版(日本医事新報)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】各項目ごとの予習と復習

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生理学Ⅱ(2/2)	田中絹代	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

ヒトの運動や行動がなぜ・どのように起こるのか，神経生理学的観点から理解する。国家試験の基礎医学科目に該当する為、個人、グループ活動を取りいれ、知識の確実な定着を目指します

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①自律神経系の機能について説明できる	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③感覚の種類、感覚器の構造と機能について説明できる	前に踏み出す力
③中枢神経系の高次機能について説明できる	知識・理解
④	態度・志向性
⑤	

【履修上の注意】予習と復習を怠らない

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	前期の復習	前期の学習内容について説明できる	個人
2	自律神経系の構成と機能	自律神経系の構成と自律神経支配の特徴について説明できる	個人
3	感覚機能の構成と機能①	感覚の種類と感覚の一般的性質について説明できる	個人
4	感覚機能の構成と機能②	体性感覚の種類，受容器の構造と機能、伝導路について説明できる	個人
5	感覚機能の構成と機能③	嗅覚と味覚受容器の構造と機能，伝導路について説明できる	個人
6	感覚機能の構成と機能④	聴覚器・前庭感覚器の構造と機能について説明できる	個人
7	感覚機能の構成と機能⑤	視覚器の構造と機能について説明できる	個人
8	中間まとめ	講義の前半を振り返り理解する	個人
9	中枢神経系の構造と機能の概要	中枢神経系の構成と高次機能の概要について説明できる	個人
10	大脳皮質の機能局在と統合機能	大脳皮質の機能局在と統合機能について説明できる。	個人
11	覚醒と睡眠	覚醒と睡眠について脳幹網様体の機能から説明できる	個人
12	学習と記憶	学習と記憶について大脳辺縁系や小脳の機能から説明できる	個人
13	情動と動機づけ	情動と動機づけについて大脳辺縁系と視床下部の機能から説明できる	個人
14	運動生理	運動に伴う全身の変化について植物機能生理学の知識と統合して説明できる	個人
15	全体の振り返りとまとめ	ヒトの行動の機序について振り返り学習を通して理解を深める	個人
期末試験	後期期末試験	評価方法	筆記試験 90% 授業への貢献 10%

【教科書】	最新リハビリテーション医学講座　生理学
【参考書】	人体の正常構造と機能 【全10巻縮刷版】 改訂第4版(日本医事新報)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】各項目ごとの予習と復習

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生理学実習	作業療法学科教員	内柴

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

人体の機能について実験的に学ぶ。自分自身あるいは同級生を対象にして、感覚系や運動系あるいは循環や呼吸などの機能に関する基礎を習得することを目的とする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①資料等を基に、実習遂行に必要な知識を整理することができる。	知識・理解
②各種機器等の取り扱い方などを学ぶ。	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③生体の法則および生理学的背景を理解する。	統合的学習体験
④実験結果をまとめる作業を行うことで、生理学講義内容を再確認し理解を深める。	問題解決力
⑤	論理的思考力

【履修上の注意】対象者を持つ実習の第一弾であり、緊張感を持って実習に臨むこと。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	実習の進め方、グループ学習について説明を受け、実習の準備を進める。	個人
2	事前課題のまとめ方	テーマ毎に提示された事前学習課題について、調べ、まとめ学習を進める。	個人
3	A-1 循環(心拍・血圧)解析 薄井(純)	触診法および聴診法での血圧測定、とう骨動脈触知による脈拍測定の方法を学習する。	グループ
4	A-2 循環(心拍・血圧)解析 薄井(純)	安静状態および体位変換による血圧・心拍数の観察・測定し、神経性調節の仕組みを理解する。	グループ
5	A-3 循環(心拍・血圧)解析 薄井(純)	安静状態および体位変換による血圧・心拍数の観察・測定し、神経性調節の仕組みを理解する。	グループ
6	B-1 心電図解析 薄井	心電図測定:標準12誘導心電図を記録し、心臓の電気的興奮の発生を理解する。	グループ
7	B-2 心電図解析 薄井	心電図解析:12誘導の方法、心電図の波形の意味を理解する。	グループ
8	B-3 心電図解析 薄井	心電図実証解析:グループでの電極移行での心電図変化から、生理学的背景を理解する。	グループ
9	C-1 肺活量測定 羽川	安静時の呼吸回数と、体位変換や運動負荷が呼吸回数に及ぼす影響を調べ、呼吸調節の仕組みを理解する。	グループ
10	C-2 肺活量測定 羽川	安静時の呼吸回数と、体位変換や運動負荷が呼吸回数に及ぼす影響を調べ、呼吸調節の仕組みを理解する。	グループ
11	C-3 肺活量測定 羽川	安静時の呼吸回数と、体位変換や運動負荷が呼吸回数に及ぼす影響を調べ、呼吸調節の仕組みを理解する。	グループ
12	D-1 表面筋電図 高野	筋電図測定と解析の意義、実施方法、使用機器の構成について理解する。	グループ
13	D-2 表面筋電図 高野	測定実証:グループにて測定を実施する。	グループ
14	D-3 表面筋電図 高野	測定結果の解析:測定から得られた結果を解析・解釈する方法を理解する。	グループ
15	課題レポートのまとめ	テーマ毎に提示されたレポート課題のまとめ作業を進める。進捗状況に合わせた教員からの指導を含める。	個人
期末試験	テーマごとの課題提出	評価方法 課題の達成度 100%	

【教科書】	特になし
【参考書】	テーマごとに教員が紹介した書籍や文献、図書室の書籍などを使用

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学、生理学の学習内容が基礎となる。教科書、資料などを活用すること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
運動学Ⅰ(1/2)	高野真一 病院(作業療法士)7年勤務	高野

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

運動学は、国家試験科目においては、基礎医学の柱のひとつであり、学ぶ目的を常に意識しながら、その基本を理解する。
前期においては、上肢の動きについて解剖学知識を含め理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①運動学とは何かを説明できる。	前に踏み出す力
②生体力学の基礎について理解し、関節や筋の動きについて説明できる。	考え抜く力
③上肢の動きについて、解剖学知識を含めて説明できる。	知識・理解
④	専門職としてのｽｷﾙ・意識
⑤	論理的思考力

【履修上の注意】課題は必ず期限までに提出してください

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション、運動学とは	運動学の基礎と目的を理解する。 基本肢位、関節運動に関する基本用語を理解する。	個人
2	生体力学の基礎 ①	身体運動の基本肢位(面と軸)について理解する。運動学的分析における生体力学の基礎について理解する。	個人
3	生体力学の基礎 ②	モーメントについて理解する。 運動法則を理解する。	個人
4	生体力学の基礎 ③	力学的エネルギーや、てこの種類について理解する。	個人
5	関節の構造と機能	関節の構造と運動について理解する。	個人・グループ
6	筋の収縮	筋の収縮について理解する。 筋の働きについて理解する。	個人・グループ
7	姿勢	姿勢とその制御機構について理解する。 様々な姿勢について解剖学的・運動学的に理解する。	個人・グループ
8	前期前半の振り返り 上肢帯と上肢の運動 ①	前半の振り返り。上肢帯と上肢の解剖学的特徴について理解する。上肢帯と肩関節周囲の骨について理解する。	個人・グループ
9	上肢帯と上肢の運動 ②	上肢帯と肩関節の動きと上肢帯に付着する筋の作用について理解する。	個人・グループ
10	上肢帯と上肢の運動 ③	肩関節の特徴と運動、肩関節を構成する骨と筋、靱帯の作用について理解する。	個人・グループ
11	肘関節と前腕の運動 ①	肘関節の特徴と運動、肘関節を構成する骨と筋、靱帯の作用について理解する。	個人・グループ
12	肘関節と前腕の運動 ②	肘関節に作用する筋の働きについて理解する。	個人・グループ
13	手関節と手の運動 ①	手関節の解剖学的特徴および構成している骨の名称を理解する。	個人・グループ
14	手関節と手の運動 ②	手関節および手指の運動と各関節の名称を理解する。	個人・グループ
15	手関節と手の運動 ③	手関節と手指の筋と作用および手や指の変形について理解する。	個人・グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80%	受講態度 10%
			課題の達成度 10%	

【教科書】	基礎運動学 第6版 補訂 中村隆一(医歯薬出版)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】そのつど、解剖学・生理学の教科書を確認し、内容の理解に努めること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて　　提出ノートに記入

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
運動学Ⅰ(2/2)	高野真一 病院(作業療法士)7年勤務	高野

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

運動学は、国家試験科目(基礎医学)のひとつであり、後期では、下肢・体幹の動きについて解剖学的知識を含め身につける。 また、歩行、運動発達、運動処方、運動学習についても理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①下肢と体幹、顔面の動きなどについて解剖学的知識を含め説明できる。	前に踏み出す力
②身体運動を運動学的表現を使って説明できる。(運動分析、動作分析)	考え抜く力
③歩行、運動発達、運動処方、運動学習について理解できる。	知識・理解
④	専門職としてのｽｷﾙ・意識
⑤	論理的思考力

【履修上の注意】課題は必ず期限までに提出してください

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	下肢帯と下肢の運動	下肢帯と下肢の解剖学的特徴について理解する。 下肢帯と下肢の運動について理解する。	個人・グループ
2	股関節の運動	股関節を構成する骨と靱帯について理解する。 股関節の特徴と運動方向の名称を理解する。	個人・グループ
3	膝関節の運動	膝関節を構成する骨と靱帯について理解する。 膝関節の特徴と運動方向の名称を理解する。	個人・グループ
4	足関節(足部)の運動 1	足関節を構成する骨と靱帯について理解する。 足関節の特徴と運動方向の名称を理解する。	個人・グループ
5	足関節(足部)の運動 2	足関節の運動に関与する筋について理解する。 足のアーチや足の変形について理解する。	個人・グループ
6	頸部の運動	頸椎の関節、靱帯について理解する。 頸部の運動の特徴と筋の作用について理解する。	個人・グループ
7	胸部の運動	胸椎と胸郭の関節、靱帯について理解する。 呼吸の種類と筋活動について理解する。	個人・グループ
8	後期前半の振り返り 腰部の運動	前半の振り返り。 腰椎の関節、靱帯について理解する。 腰部の運動の特徴と筋の作用について理解する。	個人
9	頭部と顔面の運動	頭部および顔面の解剖学的特徴と運動(特に咀嚼筋)について理解する。	個人
10	運動と動作の分析 1	運動分析についての専門用語と、専門用語を用いた分析を理解する。	個人・グループ
11	運動と動作の分析 2	運動分析についての専門用語と、専門用語を用いた分析を理解する。	個人・グループ
12	体力と運動処方	運動に必要なエネルギーについて理解する。 運動処方の基準について理解する。	個人・グループ
13	歩行	正常歩行の用語、歩行周期について理解する。正常歩行の関節運動、筋活動、床反力について理解する。	個人・グループ
14	歩行、異常歩行	異常歩行パターンについて理解する。 歩行についてその特徴を理解する。	個人・グループ
15	運動発達と運動学習	乳幼児の学習曲線について理解する。運動学習とパフォーマンスについて理解する。	個人・グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80%	レポート 10%
			小テスト 10%	

【教科書】	基礎運動学 第6版 補訂 中村隆一(医歯薬出版)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】そのつど、解剖学・生理学の教科書を確認し、内容の理解に努めること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて　　提出ノートに記入

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
人間発達学	田中絹代	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

新生児から高齢者まで広範にわたるリハビリテーションの対象者の支援につなげるため，人間発達の過程を体系的(年齢別，および領域別)に学習する。国家試験科目に該当するため、グループ活動を通して知識の定着を目指します。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①人間の発達をライフサイクルという視点に立って理解する	知識・理解
②身体，運動，認知，心理，言語など領域別の発達過程と特徴について説明できる	態度・志向性
③胎児期、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、老年期の各発達段階の特徴について説明できる	論理的思考力
④主要な発達検査(遠城寺式、デンバー式)の特徴を理解し、説明できる	態度・志向性
⑤	

【履修上の注意】予習と復習を怠らない

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	総論	人間の発達とライフサイクルについて理解し，説明できる 発達の定義、原則、発達に理論について説明できる	個人
2	胎児期と出産	胎児期の発達と出産前後の心身機能・生理機能の変化について説明できる	個人
3	乳児期・幼児期前期の発達	乳児期、幼児期前期の心身機能・生理機能・認知機能、および活動と参加の発達について説明できる	個人
4	幼児期後期・学童期の発達	幼児期後期、学童期の心身機能・生理機能・認知機能、および活動と参加の発達について説明できる	個人
5	青年期・成人期・老年期の発達	青年期・成人期・高齢期の心身機能・生理機能・認知機能、および活動と参加の発達について説明できる	個人
6	保育園実習①(幼児期前半)	保育園実習を通して、幼児期前期の発達の特徴について説明できる	グループ
7	保育園実習②(幼児期後半)	保育園実習を通して、幼児期後期の発達の特徴について説明できる	グループ
8	心身機能・身体構造の発達① 身体機能と生理機能	身体機能の発達と生理機能の発達について説明できる	個人
9	心身機能・身体構造の発達② 粗大運動機能	姿勢調整と移動運動の発達、原始反射について説明できる	個人
10	心身機能・身体構造の発達③ 巧緻運動機能	手の機能の発達について説明できる	個人
11	心身機能・身体構造の発達④	認知機能・心理機能・言語の発達について説明できる	個人
12	遊び・日常生活活動・コミュニケーションの発達	遊びや日常生活活動、対人コミュニケーションの発達について説明できる	個人
13	脳機能の発達と人間発達	人間の行動や情動の発達の背景になる脳機能の発達について説明できる	個人
14	発達評価	遠城寺式乳幼児分析的発達検査など主要な発達検査の特徴を理解し、説明できる	個人
15	まとめ	領域別や年齢別の発達について理解し、説明できる	グループ

期末試験	期末後期試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%

【教科書】	リハビリテーションのための人間発達(第3版) 母子手帳
【参考書】	適時紹介します

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】各項目ごとの予習復習を怠らない

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
公衆衛生学概論	内柴　佑基	内柴

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	8(15)	講義	1

【授業の概要・目的】

集団レベルでの「健康」を維持するための方策，世界規模での問題点や地域社会で展開されている公衆衛生活動を理解する．また標準予防策をはじめとする感染症対策の知識および技術を習得する．

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①公衆衛生の歴史を学び基本的な考え方が理解できる． ②一次予防・二次予防・三次予防の具体的な内容が理解できる． ③各国の公衆衛生や諸問題について議論できる． ④老人保健・精神保健・産業保健・環境保健について理解できる． ⑤感染症の種類や予防策を学び標準予防策を実践できる．	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 情報活用能力

【履修上の注意】能動的に学んでください．

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	公衆衛生学とリハビリテーション	公衆衛生学の歴史やリハビリ専門職の取り組みや期待について学び、理解し説明することができる．	個人
2	公衆衛生の基礎知識　① 健康・生活のとらえ方	健康や生活のとらえ方の概要について学び、理解し説明することができる．	個人
3	公衆衛生の基礎知識　② 地域のとらえ方、統計・疫学について	地域や地域資源について学び、関連する統計や疫学調査について理解することができる。	個人
4	公衆衛生活動の基盤	制度・施策・連携と協働について学び、関連する統計や疫学調査について理解することができる。	個人
5	公衆衛生活動の実際	各分野の保険や施策について学び、理解し説明することができる．	個人
6	公衆衛生活動の拡がり	災害や国際協力などの施策について学び、理解し説明することができる．	個人
7	地域へのアプローチ	ヘルスプロモーションやポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチなどを学び、理解し説明することができる．	個人
8	行動変容へのアプローチ	エンパワーメントやセルフ・エフィカシーなどを学び、理解し説明することができる．	個人
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験		評価方法	レポート　50% 発表会の結果　50%	

教科書】	Crosslink basic リハビリテーションテキスト 公衆衛生学　メジカルビュー
参考書】	特に定めない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループワークの発表、課題提出あり。課題提出の期日を守ってください。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
リハビリテーション医学	薄井　純子	薄井（純）

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

リハビリテーションの理念や意義を理解し、様々な観点から現在のリハビリテーションの位置づけとリハ専門職の役割について概説する。またリハ職が関わる疾患および障害の理解を促し、具体的対応について講義とグループワークを行う。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①リハビリテーションの理念や意義、専門職としての役割を理解する。	考え抜く力
②障害と病気の問題解決方法としてのリハビリテーションを理解する。	チームで働く力
③各疾患・障害に対するリハビリテーションアプローチについて理解する。	知識・理解
④文献を用いて調べ、まとめる方法を身に付ける。	専門職としてのｽｷﾙ・意識
⑤	情報活用能力

【履修上の注意】講義を聴くだけでなく、能動的な学習方法を身につけることが必要になる。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	リハビリテーションの理念 定義と変遷	リハビリテーションの理念と歴史、意義について理解する。	個人
2	健康と疾病のとらえ方 ICD（国際疾病分類）とICF（国際生活機能分類）	健康と疾病の定義と分類について理解する。	個人
3	リハビリテーション対象者の理解	多様な対象者とそのneeds、対象者の心理について理解する。	個人
4	リハビリテーションの5分野	医学的、教育的、職業的、社会的、地域的リハビリテーションについて、それぞれの特性を理解する。	個人
5	医療提供体制	EBMとNBM、一次・二次・三次医療について理解する。	個人
6	リハビリテーションにおける倫理	インフォームドコンセント、医療従事者の守秘義務について理解する。	個人
7	リハビリテーションの実際	チーム医療と関連職種、リハビリテーションプログラムについて理解する。	個人
8	保健予防の考え方と実践	保健予防と実践について理解する。	個人
9	医療福祉制度と関連法規	医療、福祉制度と関連法規について理解する。	個人
10	疾患別リハビリテーション①	神経疾患について、疾患の特徴や障害の特性を理解し、リハビリテーションの対応について調べ学習する。	グループ
11	疾患別リハビリテーション②	整形外科疾患について、疾患の特徴や障害の特性を理解し、リハビリテーションの対応について調べ学習する。	グループ
12	疾患別リハビリテーション③	内科疾患について、疾患の特徴や障害の特性を理解し、リハビリテーションの対応について調べ学習する。	グループ
13	疾患別リハビリテーション④	疾患について各グループで調べた内容をスライドにまとめ、発表を行う。	グループ
14	動物介在療法について①	ホースセラピーを実際に体験することで動物との触れ合いが人に及ぼす影響を学習する。	グループ
15	動物介在療法について②	ホースセラピーを実際に体験することで動物との触れ合いが人に及ぼす影響を学習する。	グループ

期末試験	評価方法		
筆記試験 グループワークの発表	筆記試験 発表会の結果	50% 50%	

【教科書】	最新リハビリテーション基礎講座　リハビリテーション概論
【参考書】	特に定めない。他の基礎科目の教科書を参考にすること。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】そのつど、解剖学・生理学の教科書を確認し、内容の理解に努めること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて　　提出ノートに記入

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
看護・介護概論	星　亜矢子 ほか	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	8(15)	講義	1

【授業の概要・目的】

医療・福祉の現場において多職種と連携しながら対象者を支援するために、看護および介護の基本的役割、生活支援の視点、社会福祉制度の基礎を理解する。さらに、チーム医療・チームケアにおける作業療法士の役割を考察する。

【学習目標(到達目標)】

①看護職と介護職の役割および専門性を説明できる。
②生活支援の視点から対象者理解の重要性を説明できる。
③医療・福祉制度の基礎と多職種連携の必要性を理解する。
④作業療法士と他職種の連携について自分の考えを述べることができる。

【受講して得られる力】

チームで働く力
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
態度・志向性

【履修上の注意】配布資料をファイルなどにまとめておくこと

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	看護の役割と対象者理解	看護の基本概念(健康・生活・ケア) 看護職と作業療法士の連携	個人
2	介護の基本理念と生活支援	介護福祉の基本理念 自立支援と生活支援について理解する	個人
3	安全に生活する環境を考える	居室環境の整え方とベッドメイキング 生活を支える居室環境とベッドメイキングを学ぶ	個人
4	障害者支援と生活支援の実際	障害者福祉の考え方 地域生活支援とリハビリテーションについて理解する	個人
5	社会福祉制度と地域包括ケア	医療・介護・福祉制度の概要 地域包括ケアシステムについて理解する	個人
6	介護技術と生活機能支援	基本的な介護技術(移動・食事・排泄) 移動・食事・排泄に関する基本的な介護技術を学ぶ	個人
7	慢性呼吸器疾患の看護	慢性呼吸器疾患患者に対する看護について理解する 慢性呼吸器疾患患者の特徴と看護を理解する	個人
8	チームアプローチ・いきる、いのち	多職種連携を考える。ターミナルケア・グリーフケアを知り、いきる(クラス・人生)を考える	個人
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	特に定めない
【参考書】	特に定めない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】講義内容の復習を怠らないこと

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

3. 専門分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
基礎作業療法学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	薄井純子 病院(作業療法士)6年勤務	薄井(純)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

作業療法の最大の特徴である「作業(活動・生活行為)」に焦点を当てる専門職としての基礎について理解する. Occupyの意味, 作業療法の土台となる基礎学問を理解し, 応用科学としての作業療法について実技を通じて理解する.

【学習目標 (到達目標) 】	【受講して得られる力】
①作業療法の基礎学問となる作業科学について理解できる.	知識・理解
②作業療法の関連学問である各種学問について理解できる.	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③対象となる人の動作や作業を分析して説明できる.	コミュンケーションスキル
④作業活動を実際に行い, 作業が人に与える身体・心理の影響, 癒やしの機序を説明できる.	論理的思考力
⑤	創造的思考力

【履修上の注意】 安全に対する注意を考えながら作業に取り組んでください

回数	授業のテーマ (担当教員)	授業の内容・目標 (使用教材等)	授業方法
1	障害者とリハビリテーションの歴史	障害者の存在の歴史を理解し, リハビリテーションという言葉の意味を理解する.	個人
2	作業療法の成り立ち	作業療法の生まれた背景, 歴史を理解し, 現代までにどのような変遷をたどったかを理解する.	個人
3	作業科学について1	作業科学の成り立ちと概念、考え方を、日常の生活や作業を通じて理解する。	個人
4	作業科学について2	自分自身の生活や地域の文化的作業について文章化しまとめていけるようにする。	個人
5	作業分析・動作分析1 作品とレポート	実際に作品を制作しながら作業をする人の動作・作業を分析する手法について理解する.	個人
6	作業分析・動作分析2 作品とレポート	実際に作品を制作しながら作業をする人の動作・作業を分析する手法について理解する.	個人
7	作業分析・動作分析3 作品とレポート	実際に作品を制作しながら作業をする人の動作・作業を分析する手法について理解する.	個人
8	作業分析・動作分析4 作品とレポート	作業をする人の動作・作業を分析する手法について理解し、パソコンを使って分析レポートを作成する.	個人
9	作業療法の体験1 ペーパークラフト	作業療法士に必要なコミュニケーションスキルを活用し, 作業療法を体験する.	個人
10	作業療法の体験2 ペーパークラフト	体験した作業療法の効果を様々な視点から分析して, 人が作業から何を得るのか理解する.	個人
11	革細工 1	革細工活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
12	革細工 2	革細工活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
13	革細工 3	革細工活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
14	革細工 4	革細工活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
15	革細工 5	革細工活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人

期末試験	評価方法		
レポート		レポート	70%
		課題の達成度	30%

【教科書】	作業活動実習マニュアル 第2版 (医歯薬出版)
【参考書】	授業の中で紹介

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 製作物、レポートによる評価です。期日は守ってください

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
基礎作業療法学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	薄井俊介[1)]、薄井純子[2)] 1)病院(作業療法士)11年勤務 2)病院(作業療法士)6年勤務	薄井(純)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

作業療法の最大の特徴である「作業(活動・生活行為)」に焦点を当てる専門職としての基礎について理解する. Occupyの意味, 作業療法の土台となる基礎学問を理解し, 応用科学としての作業療法について実技を通じて理解する.

【学習目標 (到達目標) 】	【受講して得られる力】
①作業療法の基礎学問となる作業科学について理解できる.	知識・理解
②作業療法の関連学問である各種学問について理解できる.	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③対象となる人の動作や作業を分析して説明できる.	コミュンケーションスキル
④作業活動を実際に行い, 作業が人に与える身体・心理の影響, 癒やしの機序を説明できる.	創造的思考力
⑤	統合的学習体験

【履修上の注意】 安全に対する注意を考えながら作業に取り組んでください

回数	授業のテーマ (担当教員)	授業の内容・目標 (使用教材等)	授業方法
1	木工 薄井	木工活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
2	木工 薄井	木工活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
3	木工 薄井	木工活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
4	木工 薄井	木工活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
5	木工 薄井	木工活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
6	裁縫 薄井 (純)	裁縫活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
7	裁縫 薄井 (純)	裁縫活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
8	裁縫 薄井 (純)	裁縫活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
9	裁縫 薄井 (純)	裁縫活動を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
10	籐細工 薄井 (純)	籐細工作成を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
11	籐細工 薄井 (純)	籐細工作成を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
12	籐細工 薄井 (純)	籐細工作成を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
13	籐細工 薄井 (純)	籐細工作成を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
14	籐細工 薄井 (純)	籐細工作成を通して, 作業の工程を理解, 習熟し, 作業分析まで理解する.	個人
15	まとめ 薄井(純)	作業活動とその治療的意味について振り返りとまとめ	個人

期末試験	レポート	評価方法	レポート 70% 課題の達成度 30%

【教科書】	作業活動実習マニュアル 第2版 (医歯薬出版)
【参考書】	授業の中で紹介

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 レポートと製作物の提出期限は守ってください

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
作業療法概論 ※ 実務経験のある教員の授業科目	薄井　俊介 病院勤務(作業療法士)11年勤務	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	8(15)	講義	1

【授業の概要・目的】

作業療法とはなにかという専門職の核となる知識を学習する。作業療法士の専門性と独自性について学習し、専門職としてのアイデンティティについて理解を深める。医療、保健、福祉、教育、職業などの幅広い領域で作業に焦点を当てる専門職を理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①作業療法の目的や手段について理解することができる	考え抜く力
②作業療法士が働く領域や実践の枠組みについて説明することができる	知識・理解
③作業療法について説明できる	専門職としてのｽｷﾙ・意識
④	態度・志向性
⑤	コミュンケーションスキル

【履修上の注意】分からない点は講義内で質問し、予習・復習を含め主体的な学習をすること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	作業療法士と理学療法士の違い	作業療法士と理学療法士の違いについて説明する 作業療法士に求められる資質について説明する	個人
2	作業療法とは	作業・作業療法の定義を説明する 作業療法の歴史と変遷について説明する	個人
3	作業療法実践のプロセス	作業療法処方箋のもと，情報収集について理解する 統合と解釈，目標設定，治療計画立案について理解する	個人
4	身体障害領域、精神障害領域	身体障害，精神障害における作業療法の概要を説明する	個人
5	老年期障害領域、発達障害領域	老年期障害，発達障害における作業療法の概要を説明する	個人
6	作業療法を説明する1	グループ学習を通じて作業療法を理解する	グループ
7	作業療法を説明する2	グループ学習を通じて作業療法を理解する	グループ
8	作業療法を説明する3	課題発表を行い、作業療法を説明する	グループ
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験	課題・発表	評価方法	発表会の結果　70% 課題の達成度　30%

【教科書】	標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論 第4版(医学書院)
【参考書】	

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習課題を事前に提出すること.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
作業療法演習Ⅰ ※ 実務経験のある教員の授業科目	高野 真一 病院（作業療法士）7年勤務	高野

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

作業療法の幅広い対象領域・対象者、手段について体験学習・演習を通して深める。

【学習目標（到達目標）】

① 作業療法の面白さ、広さ、深さを知り、他者に説明することができる。
② 自分はどのような作業療法士になりたいかを考え、他者に説明することができる。
③ 専門職に求められる態度や行動を身に付け実践することができる。
④ 学生間の情報交換・交流ができる。

【受講して得られる力】

専門職としてのｽｷﾙ・意識
コミュニケーションスキル
統合的学習体験

【履修上の注意】 学外での実習を予定しています。受講だけでなく、社会人としての接遇スキルも身につけましょう。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	当科目の進め方、参加の仕方について理解し、当科目で習得する個人目標を立てることができる。	個人
2	作業療法の実践とは	作業療法の実践の「意味」「形態」「機能」について理解し、その特徴を説明することができる。	個人
3	医療領域における作業療法	医療領域における作業療法の実践について理解し、その特徴を説明することができる。	個人
4	保健領域における作業療法	保健領域における作業療法の実践について理解し、その特徴を説明することができる。	個人
5	福祉領域における作業療法	福祉領域における作業療法の実践について理解し、その特徴を説明することができる。	個人
6	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	グループ
7	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	グループ
8	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	グループ
9	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	グループ
10	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	グループ
11	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	グループ
12	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	グループ
13	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	グループ
14	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	グループ
15	作業療法体験[海洋リハビリテーション研修]	作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。	グループ

期末試験	レポートによる	評価方法	レポート 40% 課題の達成度 30%	発表会の結果 30%

【教科書】	教科書はありません。作業療法概論指定の教科書など講義中に案内します。
【参考書】	特に無し。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 講義時間内で調べ・まとめが終わらない時は、次の講義までに進めておくこと。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
作業療法演習Ⅱ ※ 実務経験のある教員の授業科目	田中絹代 肢体不自由児・発達障害児施設23年勤務（内JICA5年、作業療法士）	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

作業療法の対象および実践の領域の理解を体験学習・演習を通して深めます.

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①作業療法士の実践の場について説明ができる ②社会人として必要なコミュニケーションの基礎を学び身につける. ③見学演習を行い，見学実習にむけた自己課題が認識できる. ④ ⑤	専門職としてのスキル・意識 前に踏み出す力 コミュンケーションスキル 態度・志向性

【履修上の注意】 主体的に授業やグループ学習に取り組んでください

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	作業療法士の実践領域	作業療法士の実践領域と各領域における作業療法士の役割ついて説明できる	個人
2	作業療法の対象者の理解①	作業療法の対象者についてグループワークを通して理解する. また，障害観についても理解を深める.	グループ
3	作業療法の対象者の理解②	作業療法の対象者についてグループワークを通して理解する. また，障害観についても理解を深める.	グループ
4	見学演習に向けた事前準備	挨拶など社会的なマナーや手洗いなどの衛生管理について演習を通して身につける.	グループ
5	見学演習に向けた事前準備	演習を通して話題の提供などコミュニケーションの基本的なスキルを身につける.	グループ
6	ライフステージに沿った対象者の理解 OT学科教員	保育園での見学実習①	グループ
7	ライフステージに沿った対象者の理解 OT学科教員	保育園での見学実習②	グループ
8	ライフステージに沿った対象者の理解 OT学科教員	地域の高齢者支援事業の実習①	グループ
9	ライフステージに沿った対象者の理解 OT学科教員	地域での高齢者支援事業の実習②	グループ
10	OT領域別の見学演習① OT学科教員	精神障害者就労支援事業所の実習①	グループ
11	OT領域別の見学演習② OT学科教員	精神障害者就労支援事業所の実習②	グループ
12	OT領域別の見学演習③ OT学科教員	特別支援学校の見学	グループ
13	OT領域別の見学演習④ 田中	高齢者施設の見学	グループ
14	まとめ 田中		グループ
15	学習成果の発表 田中	作業療法の対象者や実践の内容について広い視点から説明できる	グループ

期末試験	評価方法		
レポート	レポート	60%	授業への貢献 10%
	発表会の結果	30%	

【教科書】	なし
【参考書】	適時紹介します

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 グループ活動のまとめ

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生活環境論	薄井　俊介	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

日常生活の基盤である地域やそこでの住環境は障害者や高齢者、家族や介助する人達にとって重要である。「生活環境」についてや多様な視点から検討し、作業療法士として「生活環境」にどのように関わることができるのが学びます

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①「生活」と「環境」、ノーマライゼーションの考え方に関心を持つ ②子どもや障害者、高齢者の生活環境に関心を持ち、支援策について理解する ③福祉用具や環境機器に関する基礎知識を身に付ける ④ ⑤	専門職としてのスキル・意識 コミュンケーションスキル 統合的学習体験 態度・志向性

【履修上の注意】グループでの活動を基本とする。メンバーそれぞれが責任をもって活動に臨むこと。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	「生活」と「環境」①	「生活」、「環境」の概念について理解し、自分にとって「理想の生活環境」とはなにかを考える機会を得る。	個人
2	「生活」と「環境」②	「生活」と「環境」、および「行動」の関係について理解する。	個人
3	「生活環境」7とICF	障害者の生活について、ICFの考え方を学び、「医学モデル」と「社会モデル」の違いについて理解する。	個人
4	ノーマライゼーション①	「ノーマライゼーション」の考え方と、その成り立ちについて理解する。	個人
5	ノーマライゼーション②	「バリアフリー」、「ユニバーサルデザイン」など、「ノーマライゼーション」の考え基づいて考察を深める。	グループ
6	屋内の生活環境①	車椅子体験や高齢者体験などを通して、屋内の生活環境について検討する	グループ
7	屋内の生活環境②	屋内の生活環境について検討した内容をまとめる。	グループ
8	屋外の生活環境①	車椅子体験や高齢者体験などを通して、屋外の生活環境について検討する	グループ
9	屋外の生活環境②	屋外の生活環境について検討した内容をまとめる。	グループ
10	「福祉用具」、「福祉機器」	「福祉用具」や「福祉機器」についての基礎知識を身につけ、日常生活との関連性について理解を深める。	個人
11	福祉機器展示見学①	福祉機器展示の見学および体験を通して、福祉機器と生活環境(特に住環境)について理解を深める。	グループ
12	福祉機器展示見学②		グループ
13	『生活』と『環境』のまとめ①	福祉機器展示の見学を振りかえり、障害者や高齢者に適した生活環境について具体的な支援について調べる。	グループ
14	『生活』と『環境』のまとめ②	障害者や高齢者に適した生活環境について、具体的な支援をまとめ、発表する。	グループ
15	『生活』と『環境』のまとめ③	これまでの授業を振りかえり、作業療法士として「生活環境」にどのように関わることができるか理解する。	グループ

期末試験	レポート	評価方法	発表会の結果　50% 課題の達成度　50%

【教科書】	特に定めない。講義の中で参考資料を配布する場合がある。
【参考書】	特に定めない。講義の中で参考資料を配布する場合がある。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】発表に向けた資料の作成など、グループで取り組むこと。

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
医療倫理・職業倫理	薄井　俊介	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	1	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

対象者の尊厳と権利を擁護する医療従事者の責務について学び、医療における倫理的問題について自分の考えを確立させることを目的とする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①医療専門職として職業倫理および医療倫理を高める重要性を理解する。	考え抜く力
②医療職に必要な倫理観など基本的事項について学習する。	チームで働く力
③作業療法士の職業倫理について述べることができる。	専門職としてのｽｷﾙ・意識
④	コミュンケーションスキル
⑤	問題解決力

【履修上の注意】自分だけで考えるのではなく、周囲の意見を聞きながら自分の考えをまとめること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	職業適性と職業選択	日本作業療法士協会の倫理綱領と職業倫理指針について学び、作業療法士に必要な倫理観について理解する。	個人
2	チーム医療とリーダーシップ	多職種連携とコミュニケーションの重要性について理解する。	個人
3	クライアント中心の医療とインフォームドコンセント	クライアント(患者)中心の医療や自己決定権、インフォームドコンセントの重要性について理解する。	個人
4	個人情報保護と守秘義務	個人情報保護の原則と、医療従事者の守秘義務の重要性について理解する。	個人
5	リスクマネジメント	リスクマネジメントの概念と方法、現場での対策について学ぶ。	個人
6	医療職のキャリア形成	医療の現場に出て、自分を活かしていくために何が必要か、どのように主体性を身に着けていくかを学ぶ。	個人
7	作業療法実践における倫理的ジレンマ	医療現場で起こる医療職ゆえの葛藤について、それをどのように解決していけばよいかを、事例を通して学ぶ。	個人
8	「いのちの終わり」	終末期医療と安楽死について、グループで話し合い、自分の考えを文章にまとめる。	グループ
9	「いのちの始まり」	妊娠中絶の例を通して、「いのち」の誕生について話し合い、自分の考えを文章にまとめる。	グループ
10	「いのちの質」	人工授精や精子バンクなど、生殖医療について話し合い、自分の考えを文章にまとめる。	グループ
11	「子どもの医療」	自分で決められない「子ども」に対する医療の責任はだれにあるのか、話し合いから自分の考えを文章にまとめる。	グループ
12	「いのちの決定」	認知症の人の治療はだれが決めるのか。「自己決定」について話し合い、自分の考えを文章にまとめる。	グループ
13	「いのちの優先順位」①	脳死と臓器移植について、意見交換を通して自分の考えを明らかにし、文章にまとめる。	グループ
14	「いのちの優先順位」②	結合双生児の分離手術の例を通して、生命に優先順位は存在するのかを話し合い、自分の考えを文章にまとめる。	グループ
15	「いのちの優先順位」③	「人間」と「動物」など、種の違うものの生命に優先順位はあるのか話し合い、自分の考えを文章にまとめる。	グループ

期末試験	レポートおよび提出物で評価する	評価方法	課題の達成度　100%

【教科書】	特に定めない。講義の中で参考資料を配布する場合がある。
【参考書】	特に定めない。講義の中で参考資料を配布する場合がある。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】資料を事前に渡された場合は、それを熟読して授業に臨むこと。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて